

# 小学校【生活科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛驒教育事務所

## 1 生活科における「主体的・対話的で深い学び」のとらえ

- 「主体的な学び」・・・自分の願いをもち、体験活動と表現活動を繰り返しながら楽しさを実感する学び
- 「対話的な学び」・・・直接対象と関わる体験活動を通して、交流したり比較したり試行したりするなどして、新たな気づきを生み出す学び
- 「深い学び」・・・個別的な気づきが関係的な気づきへと質的に高まり、新たな気づきを獲得する学び

### 身近な生活に関わる見方・考え方

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする。

## 2 「主体的・対話的で深い学び」の例

第2学年 うごくうごくわたしのおもちゃ

(内容(3) 身近な自然を利用したり、身近にある物をつかったりするなどして遊ぶ活動を行う)

つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の導入や前時の活動から願いを明らかにし、本時の活動に意欲をもつ。</li> </ul>	<p><b>【主体的な学び】 試行錯誤や繰り返す活動の設定</b>            ※低学年は、明確な見通しをもつことは難しい特性があることに留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく遊べるおもちゃを提示し、製作したいという意欲を引き出す。</li> <li>・自分の思いを表現できる場を設定する。</li> <li>・作ったおもちゃを試す場を設定する。</li> <li>・おもちゃを工夫するための材料を多様に用意しておく。</li> </ul> <p>例：自分のおもちゃや設計図を見直す。            「もっと速く、もっと高く、もっとおもしろく動くおもちゃにしたい。」            例：自分の思いをペアや子に話す。            「もっと高くとばしたい。ゴムを2本にしてみたい。」</p>
深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の願いの実現に向けて、繰り返し事象と関わったり、試行錯誤して何度も挑戦したりする。</li> <li>・自分が発見したことと仲間が発見したことを比べ、似ていることや違うところを見つける。</li> </ul>	<p><b>【対話的な学び】 伝え合い交流する場の工夫</b>            ※低学年は、「思考」と「表現」が一体的になる特性があることに留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気づきの質が高まるように、自分が発見したことや工夫したことを発表し、仲間から意見をもらうことができる場を設定する。</li> <li>・仲間の発見や工夫を聞くことで、自分のおもちゃとの違いに気付けるようにする。</li> <li>・伝え合う活動の後には、次にどう工夫したいのか思いを表現できるようにする。</li> </ul> <p>例：自分の発見や工夫を発表する。            「高くジャンプできるように、ゴムの本数を2本にしてみたら、高くとぶようになりました。」            「カエルが跳んでいるように見えるように、緑色を塗りました。黒いボタンを付けて目にしました。」            例：次にしたいことを考える。            「〇〇さんは、ゴムの本数を多くしたらよかったみたいだから、自分もゴムの本数を増やせば、より速く走る車になるようにしたい。」</p>
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通して、気付いたことを基に考え、表現することで自らの活動や対象を見つめなおしたり、過去のことや周りのことと比べたりして気づきの質を高めていく。</li> </ul>	<p><b>【深い学び】【主体的な学び】 振り返り表現する機会の在り方</b>            ※低学年は、自らの学びを直接的に振り返ることは難しい特性があることに留意し、相手意識や目的意識に支えられた表現活動を行う中で、自らの活動を振り返ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びのよさに気付けるように、一人一人の実態に応じて声かけをする。</li> </ul> <p>教師の例：「〇〇さんのゴムの工夫を真似することで、とっても速く走るようになっていたね。            「かっこよくしたいと言っていたけど、このはねがついているところが、とってもかっこいいと思うよ。」</p>

